



遠州流挿花秘傳書 九

ヲ多
619
9



遠品流祕傳書

切紙上

遠品流祕傳書

智如良師友

二高材之時... 善也... 智也... 善也... 二執得之...

79
卷

遠列流祕傳和紙上

重抄魚鱗交

二幅封之時且花一紙也重抄之方且直下
張也揮於離二幅封之時之花二紙也且成
重抄の同方且直下張也揮也且幅封時
其二紙也一中一平年番極好有明之花
二紙揮也且是貴古張也揮也





玉露のそよ風 離 暮花の千夜子化
空海の公長 大西は十仰を 知る由也

幽玄体

若くは杜若

溲溲

ありて 庭若くは 中野の 花を 九折浦の 山 暮の 風

長高体 月舟の如き

葛城

西の 高野の 寺の 月情 何れも しく 西海 しく

香心体

松中胸

入江

中野の 寺の 中道 何れも しく 山寺 何れも しく

露露躰

白裁久

明石

名寄の 体何れも しく 西の 寺の 何れも しく 山寺 何れも しく

事可然体

薄如女高花

寐覚

西の 寺の 何れも しく 山寺 何れも しく

面白体 小中久

山室

山室の 寺の 何れも しく 山寺 何れも しく

濃体 小中

月影

月影の 寺の 何れも しく 山寺 何れも しく

四谷の茶室に唐酒の物取ありしを愛せしは
何れも亦揮りし

保農之友は四谷の浦の朝名ゆきは
賢く久遠なり 如や せしむる



入舟の茶室に唐酒の物取ありしを愛せしは
何れも亦揮りし

四谷の茶室に唐酒の物取ありしを愛せしは
何れも亦揮りし



晴も乃 夜半六唐洞北 或は月夜の露の
阿保也 未だ此葉は揮り

中記書も晴も雪も梅の夕志を
思ひ出さるる花の香はさう啼らん



寢方乃 花五六唐洞の小唐を
薄中女所 花は梅也

何れかたの秋の佳きものも
吾は此の心 ちよとあはれ



山室乃 華玄八乳のこころ生れ 山首以掃
お成るは ちやんちやん

山室ハ海世 殿とん 及南あし
おとくく ちやん 音 源人



月社の花 美八唐洞の寸度也 自か入りの
服あし 共秋は 掃地

殿は ちやん 共心 傑の 草葉 後 ちやん
おとくく ちやん 音 源人



葛城農花五尺五寸許なる管花生玉木
乃如部ら以播す由歌

寫りし玉木平山風の管花を
取らば玉木の管花の厚さ



又玉木の管花は唐洞の寸度ゆか入葉の形

水草——挿也

吾れは子に月侍りてと詠を
書き置り方の又玉木の管



障 添入船之云有帆之儀 障の舟障
 下之字の字の如福舟障也 一 展船之云有帆
 高く善船也 障也 沖の通船の字也 葉船
 之云有帆之儀 一 花船也 一 けり船之云有
 帆之儀 帆船之儀 一 風船也 帆船の儀也
 音也 破船之云有 一 常也 之云是船の音也
 都也 船障字之 障之有之云 一 船入船之儀
 舟之常 一 舟之也







